

2018年度第1四半期決算 電話会議 資料

2018年8月8日（水）

立ちどまらない保険。

MS&AD

INSURANCE GROUP

全体目次

2018年度第1四半期決算の概要

グループ連結	P5-11
国内自然災害の状況	P13-14
国内損害保険会社	P15-17
国内生命保険会社	P19-20
海外保険子会社	P21-22
（参考）国内損保会社主要 2 社の業績概要	P23-25
（参考）MS Amlin 業績概要	P27-28
（参考）ESRの状況	P29

※決算データにつきましては、当社ホームページに掲載しています「データ編(Excelファイル) 」もご参照ください。

2018年度第1四半期決算の概要

(空白)

グループ連結（2018年度第1四半期）①業績の概要 1（トップライン）

- 正味収入保険料は、国内損保子会社は自賠責の減収（△120億円）を主因に減収となったものの、グループ全体では152億円増収の9,705億円
- 国内生保子会社のグロス収入保険料は、MSP生命の販売好調を主因に309億円の増収

損保子会社

(億円)

	2017年度 第1四半期	2018年度 第1四半期	2018年度	
			前年同期比	増収率
元受正味保険料(除く収入積立保険料)※	9,820	10,191	371	3.8%
正味収入保険料※	9,552	9,705	152	1.6%
三井住友海上	3,770	3,764	△5	△0.2%
あいおいニッセイ同和損保	3,122	3,097	△24	△0.8%
三井ダイレクト損保	94	93	△1	△1.6%
海外保険子会社	2,552	2,742	189	7.4%

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

生保子会社

(億円)

	2017年度 第1四半期	2018年度 第1四半期	2018年度	
			前年同期比	増収率
保険料(グロス収入保険料)※	3,315	3,625	309	9.3%
三井住友海上あいおい生命	1,182	1,167	△15	△1.3%
三井住友海上プライマリー生命	2,133	2,458	325	15.2%
生命保険料	2,472	2,905	432	17.5%

※ 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

グループ連結(2018年度第1四半期)①業績の概要 1(トップライン)

(損保子会社[国内・海外])

- ・正味収入保険料は、152億円、1.6%の増収。
- ・国内損保2社の減収は、料率改定影響のあった自賠責保険の減収(△120億円)が主因であり、除く家計地震・自賠責ベースでは、その他種目に含まれる新種保険の増収を主因に90億円の増収。
- ・海外保険子会社は、MS First Capitalの新規連結および為替影響などで189億円増収。

(国内生保子会社)

- ・生保のグロス収入保険料は309億円の増収。
- ・MSP生命は変額、定額ともに増収し、合計で325億円の増収。
- ・MSA生命も販売好調により、新契約高や新契約年換算保険料は前年同期比プラス(19ページ参照)

グループ連結（2018年度第1四半期）①業績の概要 2（ボトムライン）

- ・経常利益は、M Sの政策株式売却損益が減少したことを主因に減益となったものの、A D、M S P 生命の増益などが寄与し、8億円の増益
- ・四半期純利益の年間純利益予想2,000億円に対する進捗率は、41.9%と計画ラインを上回る順調な滑り出し

（億円）

	2017年度 第1四半期	2018年度 第1四半期	2018年度	
			前年同期比	増減率
経常利益	1,245	1,254	8	0.7%
三井住友海上	878	728	△ 150	△ 17.1%
あいおいニッセイ同和損保	309	364	54	17.7%
三井ダイレクト損保	13	10	△ 3	△ 22.9%
三井住友海上あいおい生命	49	50	0	1.3%
三井住友海上プライマリー生命	53	167	113	210.3%
海外保険子会社	45	71	25	56.9%
その他・連結調整等	△ 106	△ 138	△ 32	-
四半期純利益 [※]	916	838	△ 78	△ 8.5%
三井住友海上	666	551	△ 114	△ 17.2%
あいおいニッセイ同和損保	224	260	36	16.1%
三井ダイレクト損保	12	9	△ 2	△ 22.4%
三井住友海上あいおい生命	24	21	△ 3	△ 12.3%
三井住友海上プライマリー生命	34	68	34	101.6%
海外保険子会社	49	44	△ 5	△ 10.9%
その他・連結調整等	△ 95	△ 117	△ 22	-

※ 連結の四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を記載。子会社の四半期純利益は、出資持分ベース。以下同じ。

グループ連結(2018年度第1四半期)①業績の概要 2(ボトムライン)

(グループ連結)

- ・経常利益は、MSが減益となったもののAD、MSP生命の増益などが寄与し、8億円の増益。
- ・四半期純利益は、MSの△114億円の減益を主因に△78億円の減益。
- ・四半期純利益の年間純利益予想2,000億円に対する進捗率は、41.9%と計画ラインを上回る順調な滑り出し。

(国内損保子会社)

- ・MSは、政策株式の売却額減少に伴い売却損益が減少したことなどから△114億円の減益。
- ・ADは、保険引受利益が増益となったことに加え、有価証券売却損益も増加したことにより36億円の増益。

(国内生保子会社)

- ・MSA生命は、商品改定による責任準備金負担の減少等により基礎利益は10億円の増益となったものの、有価証券売却損益の減少により四半期純利益は△3億円の減益。
- ・MSP生命は、定額商品の保有契約増加による利ザヤの拡大などから34億円の増益。

(海外子会社)

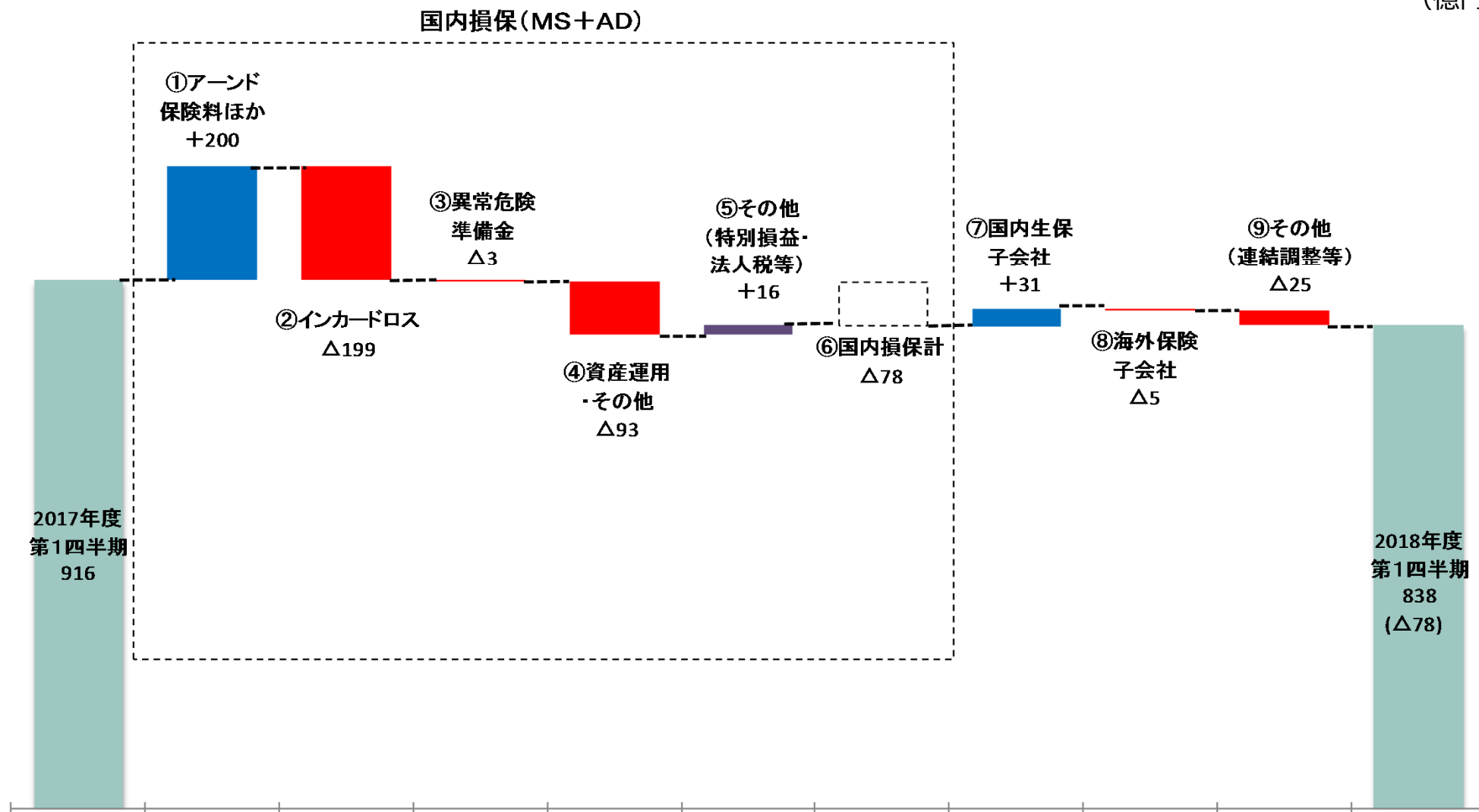
- ・海外子会社は、MS First Capital の新規連結やEI損害率の低下によりアジアが増益となった一方、欧州が減益となったことから△5億円の減益。

グループ連結（2018年度第1四半期）②前年同期との比較 1

- ・主に自動車および火災のインカードロス増加（以下②）を、アード保険料増加（①）が打ち消し、国内損保の保険引受利益は前年同期と同水準
- ・資産運用損益・その他（④）の△93億円は、政策株式の売却額減少による有価証券売却損益の減少が主因

四半期純利益

(億円)



グループ連結（2018年度第1四半期）②前年同期との比較 2

四半期純利益の内訳

(億円)

	2017年度 第1四半期	2018年度 第1四半期	差額
四半期純利益	916	838	△ 78
国内損保 ^{※1} 保険引受利益(除く家計地震・自賠責)	479	477	△ 2
アーンド保険料ほか ^{※2} ①	3,788	3,988	200
インカードロス(含む損害調査費) ②	△ 3,070	△ 3,269	△ 199
異常危険準備金積増 ③	△ 238	△ 241	△ 3
資産運用・その他 ④	709	616	△ 93
その他(特別損益・法人税等) ⑤	△ 297	△ 280	16
国内損保計 ⑥	891	812	△ 78
国内生保子会社 ⑦	58	89	31
海外保険子会社 ⑧	49	44	△ 5
その他(連結調整等) ⑨	△ 82	△ 108	△ 25

※1 国内損保は、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の金額の合計

※2 「アーンド保険料ほか」には、事業費などが含まれる

グループ連結（2018年度第1四半期）③グループ修正利益

・グループ修正利益は、国内損保事業の減益を主因に△34億円減益の1,141億円

(億円)

	2017年度 第1四半期	2018年度 第1四半期	前年同期比
グループ修正利益 ※1	1,175	1,141	△ 34
国内損保事業	1,066	936	△ 129
国内生保事業	57	92	34
海外事業	43	102	58
金融サービス事業/リスク関連事業	7	9	1

※1 「グループ修正利益」の定義は最終ページご参照。なお、「グループ修正ROE」は年度末に開示。

(参考)

$$\begin{array}{c} \text{グループ} \\ \text{修正利益} \\ 1,141 \end{array} = \begin{array}{c} \text{連結} \\ \text{四半期純利益} \\ 838 \end{array} - \begin{array}{c} \text{異常危険準備金等} \\ \text{繰入額・戻入額} \\ \Delta 183 \end{array} - \begin{array}{c} \text{その他} \\ \text{特殊要因}^{*\!2} \\ \Delta 111 \end{array} + \begin{array}{c} \text{非連結} \\ \text{グループ会社} \\ \text{持分利益} \\ 8 \end{array}$$

※2 のれん償却等△84、特別損益（除く価格変動準備金）△27

(空白)

国内自然災害の状況（2018年度第1四半期）

・国内自然災害は前年同期並みの12億円、うち大阪府北部を震源とする地震（除く家計地震）は12億円

国内自然災害の影響

(億円)

	インカードロス	
		前年同期比
三井住友海上	10	1
あいおいニッセイ同和損保	1	△0
合 計	12	1

(参考) 平成30年7月豪雨による元受保険金支払見込額

(億円)

	損保協会7/27発表ベース ※1	最終支払見込額(概算) ※2
自動車保険	61	130
火災保険・その他	158	500
海上保険	—	30
合 計	220	660

※1 7月23日時点において把握可能な情報に基づき集計した元受支払保険金および支払備金の合計額。

MSまたはADの単独契約と、MSまたはADが幹事会社である共同保険契約の全社分の合計であり、他社幹事契約分は含まない。

※2 7月31日時点において把握可能な情報に基づき、今後の事故報告の積み上がりや損害確認の進捗等を考慮した見込額。

共同保険契約については、一部の企業契約を除き非幹事会社支払負担分も含めて集計。

国内自然災害の状況(2018年度第1四半期)

(国内自然災害の影響)

- ・1Qの国内自然災害のインカードロスは、大きな災害が無かったことから、当年度と同様に大きな自然災害の無かった前年同期並みとなる12億円。
- ・うち大阪府北部を震源とする地震に係るインカードロス(除く家計地震)は12億円。

(参考:平成30年7月豪雨)

- ・第2四半期以降影響が見込まれる平成30年7月豪雨の保険金については以下のとおり。
- ・最終受付件数予想に基づき、元受支払保険金^{※1}を現時点で660億円程度と見込む。
- ・上記数値は再保険金回収による控除額を含んでおらず、また、保険金支払に応じて所定の計算に基づき異常危険準備金を取り崩すことにより決算上の影響は相殺され、業績への影響は限定的である。
- ・[日本損害保険協会\(7月27日\)発表](#)ベースの元受支払保険金^{※2}は220億円(当社分、協会集計全社分の約28%に相当)

※1 共同保険契約については、一部の企業契約を除き非幹事会社支払負担分も含めて集計

※2 7/23 受付分までの元受支払保険金(既払保険金+支払備金)。共同保険契約については、幹事会社が非幹事会社支払負担分も含めて集計(協会集計全社分789億円)

国内損害保険会社（2018年度第1四半期）①主要2社の業績概要 1

- ・アーンド保険料は、火災保険を中心に169億円の増収となった。一方、インカードロスは火災および自動車を中心に199億円の増加となった。保険引受利益（異常危険準備金反映前）は2社合計では、ほぼ前年同期並み

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比
正味収入保険料 ^{※1}	6,861	Δ 30	3,764	Δ 5	3,097	Δ 24
アーンド保険料 ^{※2}	6,000	169	3,348	87	2,651	82
インカードロス(含む損害調査費) ^{※2}	(-)	199	1,825	112	1,444	87
保険引受に係る事業費 ^{※2}	(-)	17	1,114	23	939	Δ 6
諸手数料及び集金費 ^{※2}	1,236	5	642	7	593	Δ 1
営業費及び一般管理費 ^{※2}	817	12	471	16	345	Δ 4
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	718	0	415	Δ 29	303	30
異常危険準備金損益	Δ 241	Δ 3	Δ 133	Δ 9	Δ 107	5
保険引受利益	477	Δ 2	281	Δ 38	195	36
EI損害率 ^{※2}	54.5%	1.8pt	54.5%	2.0pt	54.5%	1.7pt
正味損害率 ^{※1}	57.7%	3.0pt	58.1%	1.6pt	57.3%	4.7pt
正味事業费率 ^{※1}	32.6%	0.3pt	31.8%	0.6pt	33.6%	0.0pt
コンバインド・レシオ ^{※1}	90.3%	3.3pt	89.9%	2.2pt	90.9%	4.7pt

※1 全種目ベース、※2 除く家計地震・自賠責ベース

※ 自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ アーンド(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

国内損害保険会社（2018年度第1四半期）①主要2社の業績概要 2

- 政策株式の売却額が前年同期比で206億円減少したこと等により有価証券売却損益が△96億円減少したことを主因に、資産運用・その他収支は△93億円の減益
- 保険引受利益はほぼ前年同期並みとなったが、資産運用損益が減益となったことを主因に、四半期純利益は△78億円の減益

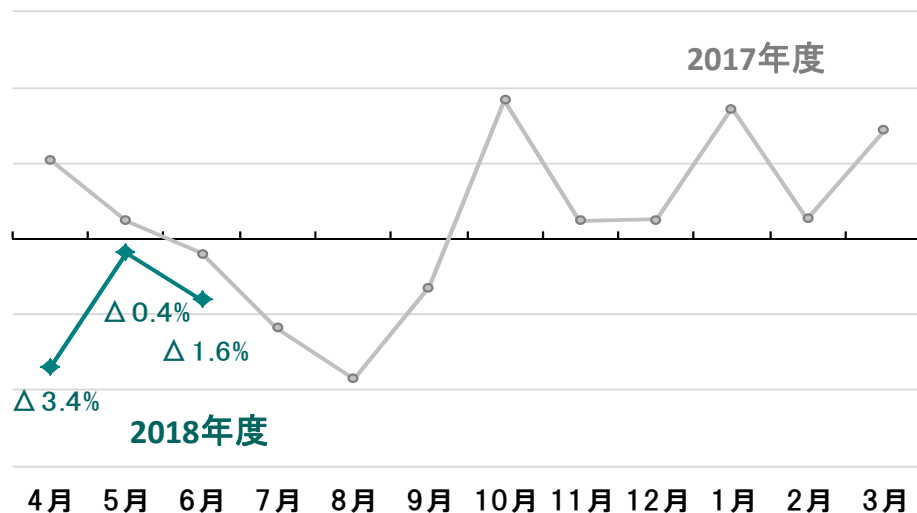
(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前年同期比		前年同期比	(単体)	前年同期比
保険引受利益	477	△ 2	281	△ 38	195	36
ネット利息及び配当金収入	462	17	316	22	146	△ 4
有価証券売却損益	194	△ 96	153	△ 118	41	22
有価証券評価損 (一)	10	5	10	5	0	0
資産運用・その他収支	616	△ 93	446	△ 111	169	18
経常利益	1,093	△ 95	728	△ 150	364	54
特別損益	△ 32	△ 6	△ 11	0	△ 20	△ 6
税引前四半期純利益	1,061	△ 101	717	△ 150	344	48
法人税等	248	△ 22	165	△ 35	83	12
四半期純利益	812	△ 78	551	△ 114	260	36
	2社合計					
		前年同期比				
(参考)政策株式売却額	265	△ 206				

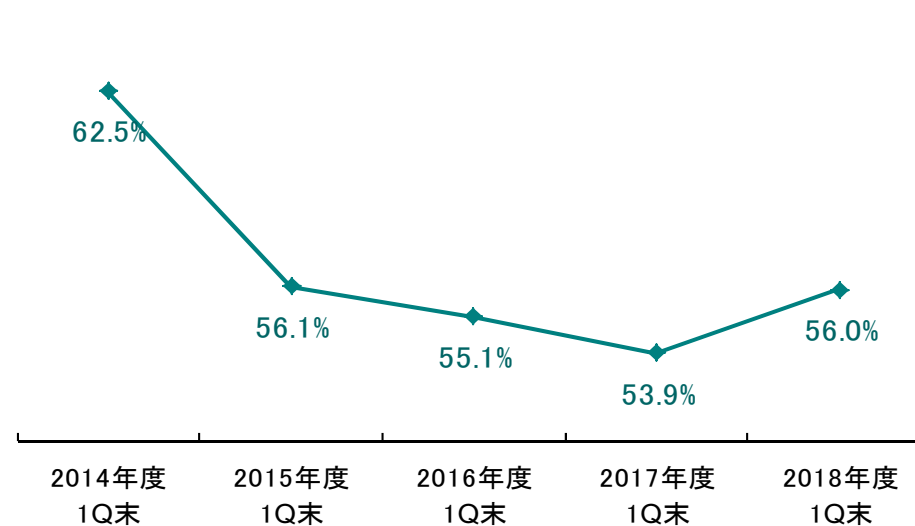
国内損害保険会社（2018年度第1四半期）②自動車保険の状況

- ・ 事故件数は、6月末累計で前年同期比△1.7%の減少。修理費の上昇等により、対物・車両の保険金単価は引き続き上昇
- ・ EI損害率は、2.1pt上昇の56.0%

事故件数の推移（国内、1日あたり、対前年同月。除く自然災害）
（MS・AD 2社単純合算ベース）



EI 損害率の推移（含む損害調査費）
（MS・AD 2社単純合算ベース）



保険料・保険金

三井住友海上

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+1.4%	△2.4%	△1.0%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+0.2%	+0.4%	

あいおいニッセイ同和損保

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+0.7%	△1.1%	△0.4%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+0.7%	+0.5%	

※ 保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース（4-6月）の対前年同期比

※ 保険金単価の増減は、2018年3月末過去1年間の保険金単価に対する、2018年6月末過去1年間の保険金単価の増減を表示

※ EI損害率算出対象期間は、各年度の4-6月

(空白)

- ・新契約高は収入保障保険の販売が好調だったことを主因に45.2%増加、新契約年換算保険料（第三分野）は新商品の販売が好調だったことなどから32.7%の増加
- ・四半期純利益は、有価証券売却損益の減少などにより△3億円減益の21億円

三井住友海上あいおい生命

(億円)

	2017年度		2018年度		増減率
	第1四半期		第1四半期		
				前年同期比	
新契約高（個人合計）		6,298	9,146	2,848	45.2%
新契約年換算保険料		84	94	9	11.3%
うち 第三分野		30	40	10	32.7%
保有契約高（個人合計）	（期首）	238,068	241,145	（期首比） 3,077	3.4%
保有契約年換算保険料	（期首）	4,123	4,137	（期首比） 13	2.7%
うち 第三分野	（期首）	967	991	（期首比） 24	9.9%
保険料（グロス収入保険料）		1,182	1,167	△ 15	△ 1.3%
経常利益		49	50	0	1.3%
特別損益		△ 1	△ 4	△ 2	—
四半期純利益		24	21	△ 3	△ 12.3%
基礎利益		38	48	10	26.9%

- ・ グロス収入保険料は、変額商品および定額商品ともに増収し、325億円の増収
- ・ 四半期純利益は、34億円増益となる 68億円
- ・ 市況環境の変動に伴う利益が発生したことから、価格変動準備金に法定繰入分を含め73億円を繰入

三井住友海上プライマリー生命

(億円)

	2017年度 第1四半期		2018年度 第1四半期		増減率
			前年同期比		
新契約高 (個人合計)	2,131	2,480	349	16.4%	
保有契約高 (個人合計)	(期首) 60,618	62,287	(期首比) 1,668	2.8%	
保険料(グロス収入保険料)	2,133	2,458	325	15.2%	
経常利益	53	167	113	210.3%	
特別損益	△ 6	△ 73	△ 66	—	
四半期純利益	34	68	34	101.6%	

金利・為替影響

(億円)

金利影響	△43	58
為替影響	△24	6
合計	△67	65

海外保険子会社（2018年度第1四半期）業績概要

- ・ 正味収入保険料はMS Amlinが為替影響により増収となったこと、およびMS First Capital の新規連結により増収。為替影響を除いたベースでは、1.7%の増収
- ・ 四半期純利益は、アジアで増益となったものの、MS Amlinを含む欧州の減益を主因に△5億円の減益

海外保険子会社

(億円)

	2017年度 第1四半期	2018年度 第1四半期	前年同期比	
			前年同期比	増減率
正味収入保険料	2,552	2,742	189	7.4%
アジア	408	468	59	14.7%
欧州	2,011	2,151	140	7.0%
(うちMS Amlin)	1,849	1,977	128	7.0%
米州	133	122	△ 10	△ 8.2%
四半期純利益	49	44	△ 5	△ 10.9%
アジア	16	41	25	157.7%
欧州	19	△ 12	△ 31	△ 162.3%
(うちMS Amlin)	24	0	△ 23	△ 97.8%
米州	1	4	3	275.8%
海外生保 [※]	12	9	△ 3	△ 24.4%

※ 2018年度より海外生保を区分表示

海外保険子会社(2018年度第1四半期)業績概要

(トップライン)

- ・正味収入保険料は、7.4%の増収。(除く為替影響で1.7%の増収。)
- ・アジアの増収の主因は、MS First Capitalの新規連結効果(52億円)。
- ・欧州の増収の主因は、MS Amlin が為替影響で増収となったこと。為替影響を除くとMS Amlinの正味収入保険料は△1億円の減収。(英ポンドの期中平均レート:前年同期@140.77円、当期@150.69円)

(ボトムライン)

- ・四半期純利益は△5億円の減益。
- ・アジアは、MS First Capitalの新規連結効果(10億円)に加え、EI損害率が低下したことなどから25億円の増益。
- ・欧州はMS Amlinを主因に△31億円の減益。

(ご参考) 国内損害保険会社 (2018年度第1四半期) 主要2社の業績概要 1

正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		増収率		増収率	(単体)	増収率
火災	841	0.7%	435	0.5%	406	1.0%
海上	183	7.9%	164	8.7%	19	1.6%
傷害	582	3.0%	408	2.4%	173	4.2%
自動車	3,461	0.0%	1,685	△0.4%	1,775	0.5%
自賠責	760	△13.7%	397	△14.0%	363	△13.3%
その他	1,031	5.4%	672	6.6%	358	3.3%
合計	6,861	△0.4%	3,764	△0.2%	3,097	△0.8%
除く家計地震・自賠責	6,098	1.5%	3,365	1.8%	2,732	1.2%

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

(ご参考) 国内損害保険会社 (2018年度第1四半期) 主要2社の業績概要 2

EI損害率 (2社単純合算)

	EI損害率			EI損害率(除く自然災害影響)		
	2017年度	2018年度	前年同期比	2017年度	2018年度	前年同期比
	第1四半期	第1四半期		第1四半期	第1四半期	
火災 (除く家計地震)	46.8%	51.6%	4.8pt	45.8%	49.6%	3.8pt
海上	55.2%	55.5%	0.3pt	55.2%	55.5%	0.3pt
傷害	52.4%	51.8%	△0.6pt	52.4%	51.8%	△0.6pt
自動車	53.9%	56.0%	2.1pt	53.8%	56.0%	2.2pt
その他	53.7%	53.5%	△0.2pt	53.7%	53.4%	△0.3pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	52.7%	54.5%	1.8pt	52.5%	54.2%	1.7pt

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ インカードロス＝正味支払保険金＋損害調査費＋支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの金額。ただし、2017年度は、国内自然災害に係るインカードロスの金額のみ

(ご参考) 国内損害保険会社 (2018年度第1四半期) 主要2社の業績概要 3

EI損害率 (三井住友海上 (単体)、あいおいニッセイ同和損保 (単体))

	EI損害率				EI損害率(除く自然災害影響)			
	三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)		三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比
火災 (除く家計地震)	54.1%	4.5pt	48.7%	5.3pt	52.1%	4.1pt	46.7%	3.5pt
海上	54.7%	1.5pt	63.8%	△10.9pt	54.6%	1.4pt	63.8%	△10.9pt
傷害	53.1%	0.1pt	48.8%	△2.2pt	53.1%	0.1pt	48.8%	△2.2pt
自動車	55.0%	2.6pt	57.0%	1.6pt	55.0%	2.6pt	57.0%	1.7pt
その他	54.4%	△0.5pt	51.6%	0.4pt	54.3%	△0.6pt	51.6%	0.4pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	54.5%	2.0pt	54.5%	1.7pt	54.2%	2.0pt	54.1%	1.4pt

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※ インカードロス＝正味支払保険金＋損害調査費＋支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの金額。ただし、2017年度は、国内自然災害に係るインカードロスの金額のみ

(空白)

(ご参考) MS Amlin 2018年度第1四半期(2018年1-3月期)業績概要※1

(百万ポンド)

	2017年度 第1四半期	2018年度 第1四半期	前年同期比
正味収入保険料	1,314	1,313	△1
アード保険料	681	755	74
インカードロス(含む損害調査費)	439	479	39
手数料・社費	268	267	△0
保険引受利益	△40	2	43
資産運用損益※2	71	33	△39
その他損益※3	△23	△40	△17
四半期純利益	17	0	△17
EI 損害率	64.5%	63.4%	△1.1pt
EI 事業費率※4	41.4%	36.3%	△5.1pt
EI コンバインド・レシオ※4	105.9%	99.7%	△6.2pt

※1 現地管理ベース (前年同期数値についても組替)

※2 MS Amlinは有価証券の時価変動を損益に反映させる会計処理方法を採用

※3 保険事業会社以外で生じる経費等。なお、2018年度第1四半期には人員削減に伴う退職一時金等が含まれる。

※4 EI 事業費率およびEI コンバインド・レシオは、現地管理に合わせて保険引受利益に含まれる為替差損益を入れて算出

(ご参考) MS Amlin 2018年度第1四半期(2018年1-3月期)業績概要

(全般)

- ・税後利益は0百万ポンド(0.4億円)と、計画どおりの着地。
- ・保険引受利益が計画を上回った一方、資産運用損益が計画を下回ったことに加え、人員削減に伴う退職一時金(その他損益)がマイナス要素。なお、退職一時金は通期予想に織り込み済み。

(保険引受利益)

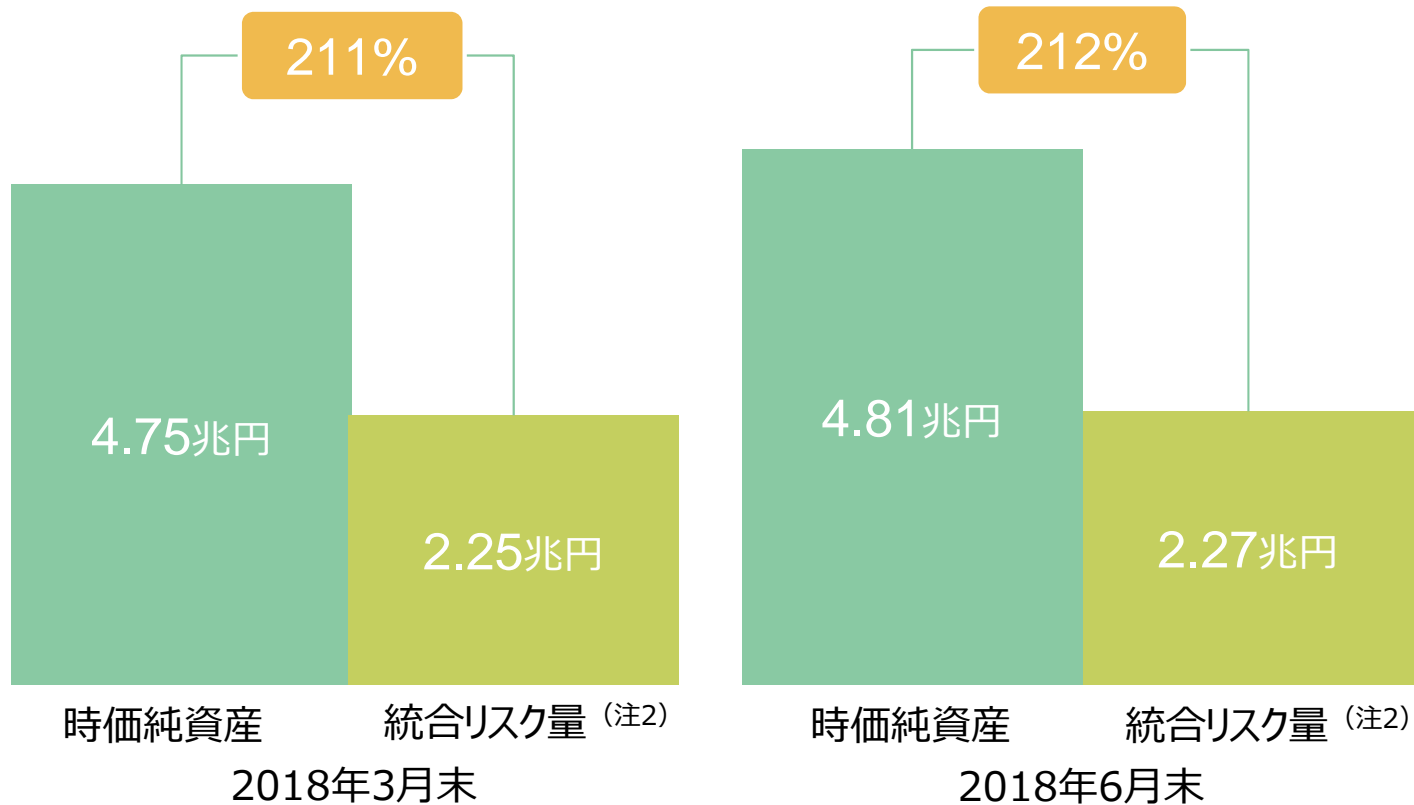
- ・アード保険料は、実勢を踏まえた見込保険料の見直しにより、74百万ポンド増収。
- ・アード保険料増加に伴い当年度ロス増加を見込み、インカードロスは39百万ポンド増加
- ・一般リスクについて、当年度引受契約における料率引上げや悪績契約の引受見合せ等の取組を、計画に沿って進めている。一方、一部の種目では過年度契約におけるIBNR備金の積み増しを行った。

(資産運用)

- ・資産運用損益は、米国を中心に株式市況が好調に推移した前年同期に比べ△39百万ポンドの減益

(ご参考) ESRの状況

ESR^(注1)



＜ESRの主な増減要因＞ (2018年3月末対比)

ESRは、主に以下のような要因により、1 pt増加

- ↗ 利益の積み上げによる時価純資産の増加
- ↗ 株価上昇による資産時価の増加(時価純資産の増加)
- ↘ 株価上昇による株式リスクの増加
- ↗ 政策株式の売却による株式リスクの減少

＜市場環境前提＞

	2018年 3月末	2018年 6月末	対3月末
日経平均株価	21,454円	22,305円	+850円
為替 (ドル円)	106円	111円	+4円
国債30年金利	0.74%	0.75%	+0.01pt

(注1) ESR : エコニック・ソルベンシー・レシオ (= 時価純資産 ÷ 統合リスク量)

(注2) 統合リスク量 : 信頼水準99.5%のVaR (Value at Risk) でリスク量を計測。

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

- ・ MS&ADホールディングス、持株会社 (＝MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス(株))
- ・ MS&AD (＝MS&ADインシュアランス グループ)
- ・ 三井住友海上、MS (＝三井住友海上火災保険(株))
- ・ あいおいニッセイ同和損保、AD (＝あいおいニッセイ同和損害保険(株))
- ・ 三井ダイレクト損保、MD (＝三井ダイレクト損害保険(株))
- ・ 三井住友海上あいおい生命、MSA生命 (＝三井住友海上あいおい生命保険(株))
- ・ 三井住友海上プライマリー生命、MSP生命 (＝三井住友海上プライマリー生命保険(株))
- ・ MS Amlin (＝MS Amlin plc)
- ・ MS First Capital (＝MS First Capital Insurance Limited)

「グループ修正利益」の定義

グループ修正利益 = 連結当期利益 + 異常危険準備金等繰入額 - その他特殊要因（のれん・その他無形固定資産償却額等）
+ 非連結グループ会社持分利益

修正純資産 = 連結純資産 + 異常危険準備金等 - のれん・その他無形固定資産

グループ修正ROE = グループ修正利益 ÷ 修正純資産（期初・期末平均）

予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS&ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。

お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社
広報・IR部

TEL: 03-5117-0311

URL: <https://www.ms-ad-hd.com/contact/index.html>